

富田林市 スマートスクール実現プラン (令和2～7年度)

富田林市教育委員会 令和3年4月9日版

1. 2040年頃の社会の姿

Society5.0

今後、AIやビッグデータの活用、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変化することが予想されます。（IoT・・・身の回りの様々なモノがインターネットに接続され、相互に情報を交換するしくみ）



内閣府Webページより (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

グローバル化

現在でも、在留外国人数、海外在留邦人数ともに増加しています。今後も、国境を越えて、社会のあらゆる分野でのつながりが進むと予想されます。

人生100年時代

我が国は世界一の長寿社会を迎え、2007年生まれの子ども50%が到達すると期待される年齢は107歳とされています。これまでの「教育→仕事→引退後」という人生モデルでは「引退後」の期間が長く続くことになるため、今後は、社会の変化に合わせて様々なスキルを学び直し、それによって働き方も変えていくなど、マルチスキル・マルチステージの人生モデルへと変化していくことが予想されます。

人口減少

少子高齢化の進行により、2040年には生産年齢人口（15～64歳）が人口の53.9%（5,978万人）まで減少し、出生率が現状のまま推移した場合は、2060年に高齢者が40%、子どもは10%以下になると予測されています。（国立社会保障・人口問題研究所の予測）

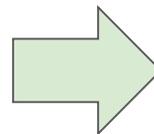
これからの社会を見据え、ICTを効果的に活用することで、子どもたちの資質・能力を一層確実に育成する

2. 誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現

～ スタディログ（学習記録）等の教育データの蓄積・可視化と活用 ～

様々な教育データの蓄積・可視化

- 1人1台環境の日常的な活用により、デジタルドリル・授業支援ソフト・Googleアプリ等の各種データをスタディログやデジタルポートフォリオとして蓄積する
- 統合型校務支援ソフト等を活用し、校務系データ（出欠状況、健康診断結果、学習評価データ）や学習系データ（デジタルドリルの正誤や解答時間・試行回数の学習履歴等）を連携させることで、「学校全体の状況」「学級全体の状況」「児童生徒の状況」等を可視化する



教育データの活用による 個別最適化された学びの実現

指導の個別化

- すべての子どもが、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるよう、ICTを活用し、それぞれの子どもに応じた重点的・効果的な指導を行う
- デジタルドリル等を活用し、子ども一人ひとりに応じた教材等を柔軟に設定する
- デジタルポートフォリオ等を活用し、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成する

学習の個性化

- それぞれの子どもに応じて、基礎的・基本的な知識・技能や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成につながる学習活動を設ける
- それぞれの子どもが、自ら学習を調整しながら、自分に合った課題を設定し、情報を収集、整理・分析し、まとめ・表現を行う等、主体的な学習の実現を図る

教育データを用いて子どもの状況や変容を客観的に把握・分析し、それぞれの子どもに応じた指導につなげる

3. 本市における、これからのICT活用

～ 「教わる」授業から、自ら「学ぶ」・お互いに「学びあう」授業へ ～

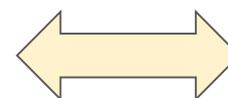
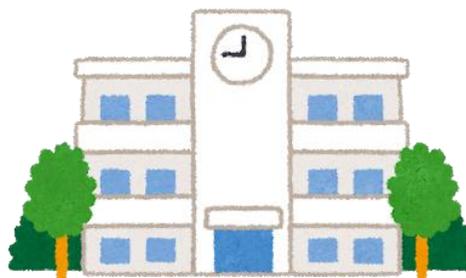
- ICTを活用し、教科の学びをつなぐ、学校での学びを生活や社会とつなぐ
- 子どもたちが生涯にわたり主体的に学び続けるための基盤となる力を育成する

社 会



- 地域の方々や社会の専門人材と、オンライン会議システムや電子メール等を活用して交流
- 地域や社会の中から自ら問題を見出し、よりよい解決に向けて情報を収集・整理し、各教科での学びを活かしながら、考えをまとめ表現する等の教科横断的な学習

家 庭



地 域

学 校

- デジタルドリルや授業支援ソフト等を活用した基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 一人ひとりの状況に応じた学習の充実
- インターネット等の活用による、子ども自身の興味関心に応じた探求的な学習
- 学校と家庭の連絡手段の充実

- 1人1台環境を用いて子どもたち一人ひとりの反応を踏まえながら実施する「双方向型の一斉授業」
- 各人が同時に別々の学習内容に取り組む「それぞれの子どもの学習状況に応じた個別学習」
- それぞれの考えをリアルタイムで共有・交流したり、お互いに協力しながらまとめ等の「協働学習」

ICTを活用することを目的化するのではなく、ICT活用の『ねらい』を明確化する（逆向き設計の授業づくり）

4. スマートスクールにより本市が実現をめざす「学び」

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力、
人間性等の涵養

生きて働く
知識及び技能
の習得

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力等の育成

ICTを「手段」として活用することで、育成をめざす資質・能力

- 生活や社会の中にある問題を見出し、よりよい解決に向けて、自ら課題を設定し、調べたり、必要な情報を取捨選択したりしている
- 収集した情報を整理・比較し、根拠を示しながら分かりやすく発信・伝達している
- お互いの考えを共有・交流することで、自らの考えを深め、新しい価値（考え）を創造しようとしている
- 自らの学びを振り返り、成長を実感し、より困難な問題の解決に向けて、粘り強く取り組もうとしている

各教科での学習

往還

教科横断的な学習

個別最適な学び

往還

協働的な学び

カリキュラム・マネジメント

ねらいを達成するために、ICTを活用する目的を明確化した上で、組織的・計画的な教育活動を実施し、評価・改善する

往還

- ①指導の個別化（個に応じた重点的・効果的な指導による基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得。学びを調整し粘り強く取り組む態度の育成。）
- ②学習の個性化（個に応じた学習活動の提供や、その子どもに応じた課題の設定等により、自ら主体的に学習を最適化できるように支援。）

学習の基盤となる資質・能力

情報活用能力

言語能力	A. 知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	問題発見・解決能力	
		問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解		
		情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解		
	B. 思考力、判断力、表現力等	問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等		
		C. 学びに向かう力・人間性等	問題解決・探究における情報活用の態度		①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度
			情報モラル・情報セキュリティなどについての態度		①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度

ICT活用による働き方改革の推進

- ・校務の情報化による業務の効率化
- ・教材や会議資料等のデータ共有

教科指導や家庭におけるICT活用

- ・デジタル教科書・デジタルドリル等の日常的な活用（家庭での活用を含む）や家庭との連絡におけるICT活用

教員の情報教育・ICT指導力の向上

- ・校内体制および校内研修の充実
- ・ICT活用に向けた学校支援の実施

5. スマートスクール実現に向けたロードマップ（概要）

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(小・教科書採択)	R6年度(中・教科書採択)	R7年度		
「ICTを“すぐにも””どの教科でも”“誰でも”活用” ～ICT活用体制構築～ 準備期《教員研修の充実と校内推進体制の確立》		「教科の学びを深める、教科の学びの本質に迫る」 ～実践の蓄積と検証～ 実践期《教材や授業実践の蓄積（データベース化）と検証》		「一人ひとりが夢を実現し、社会課題等を解決できる」 ～資質・能力の育成に向けた効果的なICT活用～ 改善期《子どもの実態把握と教育課程の改善》			
ICTを活用した「学習場面」 A 一斉学習 A1 教師による教材の提示 B 個別学習 B1 個に応じた学習 B2 調査活動 B4 表現・制作 B3 思考を深める学習 B5 家庭学習 C 協働学習 C1 発表や話し合い C2 協働での意見整理 C3 協働制作 C4 学校の壁を超えた学習 逆向き設計の授業づくりにより、ICT活用の『ねらい』を明確化		すべての子どもが自分の意見を発表できる授業づくりの推進 ・一人ひとりの学習記録やポートフォリオ等を活かし、それぞれに応じた課題設定を行う等、個に応じた指導を充実			様々な場面で、ICTを活用し、主体的に学んでいる。(達成…R7) B5 『個に応じた学習の充実』 (学習者用デジタル教科書、ロイロノート、Googleアプリ、ビデオ、Safari 等) C4 『校外・海外との交流』 (Meet、Zoom、Googleドライブ 等) ポートフォリオ、アンケート、CBT等を活用したきめ細かな分析と個に応じた指導の継続（自己調整力や粘り強さの向上）	向上	
		目的に応じて機能やアプリを自ら選択し、活用できる。自らの考えを深め、新しい価値を創造しようとしている。(達成…R5) C3 『分担・協働による同時並行作業』 C2 『複数の意見・考えの共有と整理』 C1 『考えの共有や新たな気づき』 B3 『試行・観察等による気づき・確認』 (NHK for School、ビデオ、GeoGebra、学習者用デジタル教科書のシミュレーション 等)			(ロイロノート、Googleアプリ、Keynote、Pages、Numbers、iMovie、Clips 等)	一人ひとりが自分に合ったICT活用方法を見出せるように、子ども自身が活用方法を考え、工夫する機会を設定（生涯の学びにつながる情報活用能力の育成）	向上
○市教委 ・研修マニュアル 研修用動画等の作成 ・各種研修の実施 ○各学校 ・端末、アプリ等のテスト利用 ・校内組織体制や指導計画の検討		端末やアプリの基本的な操作ができる。情報モラル・情報セキュリティについて理解している。(達成…R3年度) B4 『わかりやすい発信・伝達』 (ロイロノート、Googleアプリ、マークアップ、Keynote、Pages、Numbers、iMovie、Clips 等) B2 『主体的な情報選択』 (Safari、Meet、Zoom、カメラ 等) B1 『知識・技能の確実な習得』 (ラインズ、QR、タイピング練習サイト等の活用。ロイロノート、Googleアプリを用いたポートフォリオ作成) A1 『興味・関心を高め、わかりやすく説明』 (写真、ビデオ、スライド、Keynote、NHK for School、指導者用デジタル教科書 等による提示)			振り返りの場面でタイピングスキルの向上を図る等、『ねらい』に応じた日常的なICT活用場面を設定（ICT活用に関する知識・技能の確実な習得と情報モラルの醸成）		
①活用時数	概ね、1日に2～3コマ程度活用(6コマ中)			概ね、1日に3コマ以上活用(6コマ中)			
②タイピング	小学校 中学年 6字、高学年 8字 /分 中学校 20字 /分	小学校 中学年 8字、高学年 11字 /分 中学校 24字 /分	小学校 中学年 10字、高学年 14字 /分 中学校 28字 /分	小学校 中学年 12字、高学年 17字 /分 中学校 32字 /分	小学校 中学年 15字、高学年 20字 /分 中学校 35字 /分		
③アンケート	QRコードやカメラ等の基本的な操作ができる(肯定的回答 7割以上)	目的に応じてアプリや機能を自ら選択し、活用できる(肯定的回答 7割以上)		様々な問題を自分で見つけ出したり、よりよい解決方法を考えたりするために、ICTを活用することができる(肯定的回答 7割以上)			

達成指標

向上

向上

6. スマートスクール実現に向けた年次計画①

● R2～3年度 (準備期)

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ● 端末やアプリの基本的な操作ができる。 ● 情報モラル・情報セキュリティについて理解している。 		
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員研修の充実と校内推進体制の確立を図る。 ● 「ICTを“すぐにでも”どの教科でも”誰でも”活用」するためのICT活用体制の構築を進める。 		
取組み計画	R2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1、仕様策定と整備 2、市教委主催教職員研修や校内研修支援の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①G Suiteによる授業動画配信（実施済み） ②Classroom、Meetによる授業映像配信やドキュメント、フォーム等について ③G Suiteによるユーザーやグループの管理 ④リモート研修（オンライン会議の実施と実践例の報告） ⑤授業支援ソフトの基本操作（Zoomによる研修） 3、研修用テキストやICT機器の管理・運用に関するマニュアル等の整備 	
	R3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1、端末等の持ち帰りに関する環境整備 <ol style="list-style-type: none"> ①持ち帰りに関するきまりや端末設定の検討（操作制限、紛失対策等） ②持ち帰りの試行実施による課題検証 2、各校情報教育担当者によるスマートスクール推進会議の定期的な開催 <ol style="list-style-type: none"> ①各校でICT活用を進めるためのリーダー人材の育成と成果指標の検証 ②先進的な研究・実践に関する情報共有と支援 3、不登校児童生徒への学びの保証 <ol style="list-style-type: none"> ①授業支援ソフトやデジタルドリル、Meet・Zoom等の活用による個別支援の実施 	
成果指標	活用時数	概ね、1日に2～3コマ程度活用（6コマ中）	
	達成状況に関する公表方法は、R3年度に検討	タイピング	R3年度 小学校 中学年 6字、高学年 8字 /分、中学校 20字 /分
	アンケート	R2年度 QRコードやカメラ等の基本的な操作ができる（肯定的回答7割以上） R3年度 目的に応じてアプリや機能を自ら選択し、活用できる（肯定的回答5割以上）	
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育研究事業（教職員研修の実施） ● 小学校教育用パソコン管理事業、中学校パソコン管理事業 		

【教職員研修】
市教委担当者等による教職員研修の実施

7. スマートスクール実現に向けた年次計画②

● R4～5年度（実践期）

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的に応じて機能やアプリを自ら選択し、活用できる。 ● ICTを活用し、自らの考えを深め、新しい価値を創造しようとしている 	
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 「教科の学びを深める、教科の学びの本質に迫る」ための実践研究を進める。 ● 各校の教材や授業実践の蓄積（データベース化）と検証を進める。 	
取組み計画	R4年度	1、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、効果的なICT活用の研究と普及 ①教科の学びを深め、学びの質を高めるICT活用の効果的な活用に関する研究 ②教科での学びに関する先進的な研究・実践に関する情報共有や校内研究等の支援 2、スマートスクール推進会議の定期的な開催 ①各校での研究内容の共有や実践事例の収集 3、不登校児童生徒への学びの保証 ①授業支援ソフトやデジタルドリル、Meet・Zoom等の活用による個別支援に関する事例共有
	R5年度	1、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、効果的なICT活用の実践・蓄積 ①教科の学びを深め、学びの質を高めるICT活用の効果的な活用に関する日々の実践の蓄積。検証方法の検討。 ②目的に応じて、機能やアプリを自ら選択・活用する学習場面の設定 2、スマートスクール推進会議の定期的な開催 ①実践事例の取りまとめと、教育指導室ポータルサイト等による提供
成果指標	活用時数	概ね、1日に3コマ以上活用（6コマ中）
	タイピング	R4年度 小学校 中学年 8字、高学年 11字 /分、中学校 24字 /分 R5年度 小学校 中学年 10字、高学年 14字 /分、中学校 28字 /分
	アンケート	R5年度 目的に応じてアプリや機能を自ら選択し、活用できる（肯定的回答7割以上）
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育研究事業（教職員研修の実施） ● 小学校教育用パソコン管理事業、中学校パソコン管理事業 	

【教職員研修】

市教委担当者等による教職員研修の実施

8. スマートスクール実現に向けた年次計画③

● R6～7年度（改善期）

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で、ICTを活用し、主体的に学んでいる。 	
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 「一人ひとりが夢を実現し、社会課題等を解決できる」資質・能力の育成に向けた効果的なICT活用を進める。 ICTを効果的に活用した子どもの実態把握に基づき、教育課程や取組の改善を図る。 	
取組み計画	R6年度	<ol style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用の効果検証 <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの資質・能力の育成に向けたICT活用の効果検証と改善内容の検討 ②目的に応じて、機能やアプリを自ら選択・活用する学習場面の日常的な設定と効果検証、改善内容の検討 スマートスクール推進会議の定期的な開催 <ol style="list-style-type: none"> ①各校での実践に関する共有や検証方法検討 ICT環境の検討 <ol style="list-style-type: none"> ①以後の更新等を見据えた一人一台端末やICT環境の検討
	R7年度	<ol style="list-style-type: none"> R3～6年度の取組みに関する検証と改善方法の検討 <ol style="list-style-type: none"> ①スマートスクール推進会議等で、R3～6年度の取組みに関して総括・検証し、改善方法等を検討 新しい5ヵ年計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> ①スマートスクール推進会議等で、R3～6年度の取組みに関して総括・検証し、改善方法等を検討
成果指標	活用時数	概ね、1日3コマ以上活用（6コマ中）
	タイピング	R6年度 小学校 中学年 8字、高学年 11字 /分、中学校 24字 /分 R7年度 小学校 中学年 10字、高学年 14字 /分、中学校 28字 /分
	アンケート	様々な問題を自分で見つけ出したり、より良い解決方法を考えたりするために、ICTを活用することができる R6年度 肯定的回答 5割以上、 R7年度 肯定的回答 7割以上
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究事業（教職員研修の実施） 小学校教育用パソコン管理事業、中学校パソコン管理事業 	

【教職員研修】

市教委担当者等による教職員研修の実施